

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101003		
法人名	NPO(特定非営利活動)法人 まごころサービス松江センター		
事業所名	グループホーム まごころの家・こしばら		
所在地	島根県松江市古志原5-13-69		
自己評価作成日	令和元年9月18日	評価結果市町村受理日	令和2年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町 43番地		
訪問調査日	令和元年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

積極的に、季節の行事を行ったり、地域の行事に参加している。地域の活動に利用者様も一緒に参加して頂き、地域交流を深めている。「その人らしさと共に生きる」「今日が一番幸せな日」を理念に、毎日美味しい物を食べて笑って楽しく過ごして頂き、たとえ今日が最期でも「今日が一番幸せだった」と思ってもらえる様支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者にとって何が一番よい日になるかを考え、楽しくなる雰囲気づくりや、居心地よく過ごせる暮らしを提供し利用者がゆっくりと安心して幸せを感じ笑顔で暮らせるように支援している。職員は互いに得意なところは伸ばし不得意なところは補いながら、役割を持ち成長を認め合い、利用者一人ひとりに一番よい姿勢で向き合えるように学習して支援に繋げている。重度の利用者の居室のホール側の扉を開放して他の利用者が居室を訪問しやすくし、声をかけたり同じ空気を感じられるよう工夫し、利用者同士が支え合って暮らせるようにきめ細かい支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に、各事業所が独自の理念を掲げ、職員会議等で「理念に基づいたケアを行う」という視点で、その都度話し合いケアに活かしている。	朝礼時に「今日が一番いい日」の理念を確認し合い、理念に沿った「今月の一言」を掲げて職員会議でケアを振り返り、全職員で共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治会に加入し、地域の溝掃除や草取り等に参加している。また、地域の夏祭りのカラオケ大会に参加し、地域の方との交流を深めている。行事毎にボランティアの方に来所して頂いている。	自治会に加入し積極的に地域の活動に参加している。地域の人やボランティアの来所があり日常的に交流している。中学生の職場体験を受け入れ一緒に作品作りをし利用者の楽しみに繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「運営推進会議」を通してホームでの認知症ケアの取り組みや看取り、活動等を報告し意見の交換や情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の推進委員の方に、2ヶ月に1回の会議に参加して頂いている。会議では、ホームでの取り組みを報告し、貴重なご意見やご理解をいただき、職員間で共有しケアに活かしている。	事業所の現状や取り組みを報告し、認知症の理解を深めてもらっている。出された意見は職員間で共有しサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に「運営推進会議」で報告や相談をさせて頂いている。問題が生じた際は、市の介護保険課に相談させて頂いている。	運営推進会議で状況を伝え相談しやすい関係をつくっている。介護労働安定センターの講座の依頼を受け協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議内にて外部研修の報告や内部研修を行い、その都度話し合いを行っている。日中は玄関の施錠をせず、外出希望を訴えられる利用者様の対応として、思いを抑制せずに受け入れ外出支援を行っている。	会議や研修で理解し支援に繋げている。利用者一人ひとりの状況に合わせて安全な暮らしを家族と話し合い支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議内にて外部研修の報告や内部研修を行い、その都度話し合いを行っている。利用者様それぞれの人格を尊重し、常に敬意を持った言葉かけや態度を職員全員が意思統一し支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議内での自施設研修や自主学習により、制度の内容について確認・理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前から、ご本人やご家族にお会いする機会を多くもち、可能であればホームにも来ていただき契約についても詳しく説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意向を伺い、発語が難しい方については、出来る限り思いを汲み取り、利用者本位の運営を行っている。カンファレンスや運営推進会議等の機会にご家族の意見を伺っている。	日頃から連絡を取り合ったり、カンファレンス時に要望を聞いている。思い出の棚田を見に連れて行って欲しい、との家族の要望を聞き支援に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士が、気軽に意見や提案が言える様な職場の雰囲気作りを努めている。提案された意見は職員会議や管理者会議に図り、可能な限り反映させるよう努めている。	日常的に管理者は会議や朝礼時に意見や提案を聞く機会をつくり、意見を支援に反映させている。相談を受けたり、場を変えて思いを聞くなど職員との関係を大事にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して報告を受け、常時話し合いを行っている。毎月管理者会議を行い、職場改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を通して都度報告を受け、毎月職員会議にも参加している。各ホームに順番で昼食を一緒に食べる機会を作り、職員1人1人のケアの力量を把握している。外部研修にも積極的に参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加したり、施設見学や実習を積極的に受け入れ、情報交換を行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前よりホームの行事にお誘いしたり、ご自宅へ訪問し意向を確認するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様来所時、ご本人の様子をお伝えすると共に、ご本人の要望だけでなくご家族様が困っている事にも耳を傾け、信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子を観させて頂き、ご家族様の相談事や要望を伺い、主治医や訪問看護師、福祉用具事業者に相談し適切なサービスを導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や手作業等、一緒に出来る事を探り、声掛け等によりご本人の意向を確認し活動に参加して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や外出等の機会にその都度お誘いし、一緒に過ごしていただく事により、ご家族の関係が維持できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を把握し、ご本人やご家族からも意向を伺い、自宅への外出や親しい方との面会等の支援を行い、入所前の生活習慣が維持できるよう努めている。	以前にいた施設から招待され「石見神楽」を観に行ったり、親戚や友人の訪問があり馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や状態の把握に努めている。必要に応じてコミュニケーションの難しいご利用者様には、職員が会話を取り持ち、交流出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様にも、電話やメール等でご様子を伺っている。また、いつでもホームに寄って頂けるように声掛けを行い、馴染みの関係が継続できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族に意向を伺うとともに、日頃の観察により要望を把握し満足していただけるサービスが提供できるよう検討している。	「今日は天気がいいねえ」の何気ない一言で思いを汲み散歩したり、利用者の一言を大切にしケース記録に残している。職員は本人や家族の思いを検討しながら、情報を共有し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握するとともに、会話の中から意向を伺い、ご本人が大切にしてくられた生活環境に近づける様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を行い、心身状態の変化に気づける様に努めている。記録や職員同士の情報の共有を行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族に意向を伺うとともに、チーム内で担当職員に意見を聞きながら、プランに反映させている。	カンファレンス時に家族から意向を聞き計画に反映させている。職員間で話し合い情報を共有し、状況に即して見直しをし支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日誌、連絡帳等の記録を活用したり、利用者様の情報を口頭でも伝達している。変化があれば計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向を伺い、外出や外食・買い物等の支援を行っている。季節の行事や誕生日会等を計画しご家族様もお誘いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日本舞踊や銭太鼓等のボランティアの方の協力を得て楽しい時間を持ち、地元の活動に参加し安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医に月1回の往診をして頂き、緊急時には直ぐに連絡と報告を行い、指示を得ている。その他では、皮膚科・泌尿器科・歯科等必要に応じて往診・受診している。	希望のかかりつけ医を継続して受診し情報を共有している。急変時も医師や家族と連携したり、車イスの利用者の受診に送迎をし適切な医療が受けられる様支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、週1回の訪問を依頼している。1人1人の状態を報告し、体調に変化がある場合は都度状態の報告をし指示を得ている。24時間体制で緊急時も連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には可能な限り面会に行き、食事介助を行い、最新の情報を得ている。ご本人にとって馴染みの顔が見られる事で安心感を持ってもらう。早期に退院が出来るように病院内での支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの契約を行い、指針を策定してご家族と話し合いの時間を持ち、ご家族様の意向の確認や方針の確認を行っている。必要性が生じた場合はご家族様や協力医・訪問看護師と共に話し合い方針を共有している。	利用者、家族の希望に沿い重度化や終末期の支援に取り組んでいる。看取りのマニュアルに沿い関係者と情報共有し、看取り後振り返りを行い支援に活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会に自主参加しており、資格を取得している。また、外部講師を招き、AED等の応急手当の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと、消防訓練・避難訓練を年1回行っている。また、内部での訓練も年1回行っている。	消防訓練、避難訓練を実施し消防署の助言を受けたり地域の協力を得ている。非常時の状況に合わせ避難方法を身につけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、常に敬意を持った言葉遣いや態度を意識しながら対応している。	会議や日常的に尊重する事の大切さを話し合い、利用者を人生の先輩として尊敬の思いを忘れずに接している。羞恥心に配慮し情報共有して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いや希望を汲み取る事が出来るよう、日常的に把握できるような声掛けや関わりを心掛け、表出された気持ちを優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、それにとらわれずその日のご利用者様の状態や気持ちを把握し、臨機応変に取り入れ、穏やかな気持ちで過ごしていただけるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事等にこだわらず、身だしなみとしてお化粧をして頂き、いきいきとした表情で過ごして頂いている。2ヶ月に1度、訪問美容師に来て頂きご本人様に合ったヘアースタイルをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事して頂けるように、季節の食材取り入れている。また、職員と一緒に片付け等を行っている。	利用者の希望や季節感のある食事を提供している。ソーメン流しでは竹割りの準備から一緒に行い、五感を大事にして食べたい意欲に繋げ支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夏場の熱中症や脱水には特に気をつけ、こまめな水分補給に努めている。また、水分摂取量の少ない方は摂取量の記録を取り、職員の意識付けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア・義歯磨き・夜間は義歯洗浄剤につけ、口腔内に不具合があると思われる場合には、早めに歯科医に相談し必要に応じて往診・受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	見守りが必要な方は、その方の様子や時間・体調を観ながらトイレ誘導を行い記録している。全介助の方も不衛生にならない様に時間を観てパット交換を行っている。	排尿時間やしぐさから一人ひとりの状況に合わせて支援している。暖かなウェスを準備するなど、工夫した対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳製品を召し上がって頂いたり食物繊維の多い食材やバランスの良い食事を心掛けている。1人1人の状態を把握し、Drと相談しながら便秘にならない様に下剤やオリゴ糖などで排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を目安に、ご本人様の希望と状況によって、声掛けを工夫し気持ちよく入浴して頂いている。重度の方には、リクライニングのシャワーキャリーを使用し出来るだけ身体の負担が少なくなる様工夫している。	利用者の希望に合わせた時間や状況に合わせた声かけを行い、楽しんでもらえるように支援している。重度の人も状態を見ながらゆったりと安全に工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体調を観察しながら、日中の活動を支援している居室内の温度や湿度の管理・こまめにシーツを洗濯し気持ちよく休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤情報をファイルし、職員がいつでも見られる様にしている。常に、ご利用者様の状態を観察して状態の変化を見逃さない様に職員全員で情報を共有して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一般的な家事活動を中心に、個々の生活歴に合わせた支援や、歌を唄ったり体操を楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況やご利用者様の気分に合わせ、散歩やドライブ・外食等の支援を行っている。また、本人様・ご家族様の希望に合わせて都度行っている。	散歩やドライブなど一人ひとりの状況に合わせて希望の外出支援をしている。家族の協力で帰宅したり、計画をたて神社や庭園に出かけ季節を感じられる支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお金をお預かりし、事業所で管理している。また、外出時にはご利用者様が欲しい物をご自分で購入していただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、いつでも電話をかけて頂き、電話での会話が難しい方には職員が間に入り対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃の様子が分かる写真や、季節の飾りつけをして安らぎと楽しみのある雰囲気作りに心掛けている。音楽を流して会話を楽しみゆったりと心地よく過ごせるよう配慮している。	利用者の笑顔の写真が飾られ、利用者と一緒に作った季節感のある干し柿が吊るしてあった。空気清浄器の使用や音楽を流すなど、快適に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々で、テーブルを移動してお一人の空間を作ったり、ご利用者様同士や職員と一緒に会話を楽しんで頂けるよう空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様やご家族様と話し合い、壁にご本人やご家族の写真・自信の作品等を飾り、その方に合わせた居室作りに努めている。クローゼット以外は、馴染みのあるご自分のダンスや机を使用している。	家族と相談して居室づくりをし、使いなれた家具や写真を置き、面会時にはソファで寛げるよう、居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所等、ご自分の物がすぐに分かるように、名前が書いてある。必要な箇所に手すりを付けて安全な歩行が保てるように工夫してある。		